

TJFニュース

「TJFニュース」では、TJF（国際文化フォーラム）の活動報告や、事業に関連するさまざまな動きをニュースとしてまとめ、お伝えしていきます。

■日本の韓国語教育

日本の韓国語教育を振り返るフォーラムを開催しました

2009年11月8日（日）、TJFは駐日韓国文化院と共催で同文化院世宗学堂の後援を得て、文化院開設30周年を記念する公開フォーラム「日本の韓国語教育30年を振り返って」を開催しました。

1979年に東京・池袋に開院した韓国文化院で韓国語講座が始まり、その5年後にNHKハングル講座がスタートしました。フォーラムでは、過去25年の間にそれぞれNHK講座の講師を務めた梅田博之（麗澤大学前学長・名誉教授）、兼若逸之（東京女子大学教授）、イ・ユニ（東京成徳大学教授）、キム・ジナ（明治学院大学専任講師）の各先生、および韓国文化院で韓国語講座が開講されたときの講師オ・ヨンウォン（二松学舎大学名誉教授）先生をパネリストにお迎えし、NHK講座の当時の映像を見ながら、各先生に講座の特徴について語っていただきました。

講師が語る時期ごとの韓国語教育の特徴

■オ・ヨンウォン（韓国文化院韓国語講座初代講師）：NHK講座が始まる5年前に、韓国政府機関の支援を得て、韓国語ネイティブ講師による初の講座をスタートしました。韓服を着て授業をするなど、韓国文化の紹介にも努めました。毎回の授業後、熱心な受講者とともに喫茶店などで延長授業を行いました。

■梅田（TV1984-1989講師）：公共放送を通じた初の公開講座でした。南北の状況を考慮し「アンニョンハシムニカ？ ハングル」という名称でスタートしました。はじめに『訓民正音』を引用しながらハングル（文字）の成り立ちを丁寧に解説しました。NHK講座が始まった喜びを涙ながらに語る在日の人もいました。

■兼若（TV1995-2001・ラジオ2003-2005講師）：ソウルの徳寿宮にある世宗大王像の前



（上）公開フォーラムのパネリストたち。（下）NHKハングル講座の映像を映しながらやりとりを行った。

でハングルの文字を身体で覚えるための体操のロケを行ったとき、韓国の人びとから非難を受けるのではないかと心配したことを覚えています。韓国の歌謡曲を取り入れ、韓国語とその文化に親しめる講座を心がけました。

■イ・ユニ（TV 2008-2009・ラジオ2002-2007講師）：視聴者中心の講座にするため、スタジオだけでなく学習者のところに出かけて行き、発音クリニックを行ったり、質問に答えたりしました。また、番組の名称を「まいにちハングル講座」に変更しました。

■キム・ジナ（TV2005-2006講師）：実際の会話を重んじ、談話中心の韓国語を追求しました。中年男性ミュージシャンを学習者モデルにしたり、恋愛ストーリー仕立てのスキットを使って学習者の興味を高めるなど、「韓流」後の韓国語学習の一つを提示しようと試みました。

韓国語学習と人的交流の広がり

パネリストの話から、この30年の韓国語学習をめぐる環境の変化を垣間見ることができます。

1988年のソウルオリンピックをきっかけに第1次韓国語ブームともいえるべき状況がありました。そして、2000年代に入ると、「韓流」が社会現象となり、第2次韓国語ブームが起きました。2001年に8万部だったNHK講座のテキスト発行部数が、2005年以降、テレビ22万部、ラジオ10万部で計32万部と大幅に増えていることからわかります。

この背景に、相互往来の拡大と人と人の交流の広がりがありました。1980年代、韓国への日本人旅行者は50万人台から150万人台に急増しました。1990年代後半に再び急増し、2000年には250万人に迫ります。2000年以降、これに呼応するかのよう、日本への韓国人旅行者も100万人台から250万人へと急増します。ここ数年は、ほぼ同数の日本人と韓国人が両国の間を往来しています。

日本人の韓国観も変化しています。内閣府の世論調査によれば、1970年代後半から1980年代を通じて、韓国に親しみを感ずる日本人の割合は40～45%の間でしたが、1990年代末には50%に近づき、2000年以降は50%を超え、2006年以降60%に迫る勢いで推移しています。

高校教育のなかの韓国語

現在、中学校十数校と高校全体の約5%で韓国語の授業

を選択することができます。韓国語を開設している高校の数は1980年代、1990年代を通じて増加しています。ただし、NHKの韓国語講座受講者の増加傾向と比べると、Kポップや韓国に対する関心が高まっているにもかかわらず、中高校生の韓国語学習者はほとんど増えていません。

TJFは、少ないながらも着実に増えてきた韓国語教育の流れを後押ししています。今後も高校教育を中心に韓国語教育を支援すると同時に、日本語を学ぶ韓国の高校生との交流を進めていきたいと考えています。

(小栗章)

■中高校生の交流プログラム

「つながる」のワークショップを実施しました

11月8日(日)に、山口県光市で行われた「国際交流チャレンジワークショップ」(ボイスカウト山口連盟主管)に招かれ、山口県の中高校生30人を対象



グループに分かれてディスカッション。

に2時間のワークショップを行いました。このワークショップでは、「つながる」の仕組みや書き込み例を紹介したあと、グループに分かれてウェブサイト上で日本も含めさまざまな国の人と交流するときどんな工夫をしたらいいか、どういうことに気をつけたらいいか話し合いました(内容は下記参照)。お互いのアイデアを共有したあと、それをふまえて実際に自己紹介のエッセイを書いたり、「タイムカプセル」コミュニティ(p.13参照)に50年後の自分に送るメッセージを書き込みました。ワークショップの参加者は今も「つながる」でいろいろなメンバーとの交流を続けています。

★グループでのディスカッションや作業は、山口大学で国際理解教育や英語教育を学ぶ学生9人に全面的にサポートしていただきました。

ワークショップで参加者から出たアイデア

安全に、楽しく、さまざまな人と交流するために、工夫できそうなこと、気をつけたいこと

- ・自分から楽しむ
- ・相手の気持ちや立場を考える。人を傷つけるようなことを書かない
- ・個人情報を書かない、聞かない
- ・写真を使うときは肖像権に注意する

ほかのメンバーと交流を続けていくために工夫できること

- ・質問をしてみる
- ・具体的なことを書いてみる
- ・題名を工夫する
- ・みんなが知っていたり楽しめたりすることを書く
- ・話題をすぐに変えない。でもときどき変えてみる
- ・相手が答えを返しやすい書きかたをする
- ・相手が書いている話題にあったことを書く

- ・写真や絵、絵文字や記号も使ってみる

日本語を勉強中のメンバーにコメントを書くとき、工夫できること

- ・あまりにも難しい漢字を使わない
- ・簡単な構造の文章を書く。長々とした文章は書かない
- ・日本語の文章と英語の文章を並べて書く
- ・相手がわからないような難しい言いまわしや表現を使うときは気をつける
- ・難しいことばを使ったら、その意味を説明する

ワークショップを随時実施中!

関東を中心にスタッフが随時学校に出向いて生徒向けのワークショップを行っています。また、昨年8月には大阪の羽衣学園中学校・高等学校において、同校の教諭で「つながる」のアドバイザーでもある米田謙三教諭のご協力を得て教師向けワークショップを行いました。今後も教師向けの説明会やワークショップを実施していきたいと考えています。

すでにメンバーになっている生徒向けのワークショップ、これから参加予定の生徒向けのワークショップ、教師向け説明会・ワークショップをご希望の方は、ぜひご連絡ください(tsunagaaru@tjf.or.jp あるいは、電話03-5981-5226)。

(室中直美)

■事務所移転

新事務所にて業務を開始しました

昨年12月、TJFは事務所を都内文京区音羽に移転しました。これを機に職員一同気持ちを新たに、これまで以上に質の高い公益活動に取り組んでいきたいと考えています。今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新事務所:

〒112-0013

東京都文京区音羽1-17-14 音羽YKビル3階

(東京メトロ有楽町線「護国寺」駅下車。出口6番より徒歩3分)

TEL: 03-5981-5226 FAX: 03-5981-5227

E-mail: forum@tjf.or.jp

実施事業一覧(2009年10月・11月・12月)

- 第5回沖縄県高校生中国語発表大会後援(10月/浦添)
- 『国際文化フォーラム通信』第84号発行(10月)
- 『小溪』No.42発行(10月)
- 公開フォーラム「日本の韓国語教育30年を振り返って」共催(11月/東京)
- 第6回北海道地区高校生中国語発表会後援(11月/札幌)
- 第9回東海地区高校生中国語発表会後援(11月/名古屋)
- 第14回近畿地区高等学校中国語弁論大会後援(11月/大阪)
- 第8回九州・山口地区高校生中国語発表会後援(11月/福岡)
- 第15回高等学校中国語発表大会後援(11月/神奈川)
- 第1回山陰地区高校生中国語発表会後援(11月/鳥取)
- 日本の地域教育行政者の中国派遣事業を主催(12月/中国北京)
- 『Takarabako』No. 22発行(12月)
- 『ひだまり』第41号発行(12月)

お知らせ

京劇ワークショップを開催します

TJFは、中国大使館教育処と共催で、中国の代表的な伝統文化の一つである京劇をテーマにしたワークショップを開催します。北京戯曲学校で京劇を専攻し、現在日本で京劇役者として活動されている魯大鳴さんをお迎えし、映像や実際の演技指導（せりふや動作）を通して、中国語や京劇を含めた中国文化の魅力を伝えたいと思っています。ワークショップ終了後は、中国の代表的な食文化である水餃子を食べながら、参加者間の交流を図ることも企画しています。皆さまお誘いあわせのうえ、奮ってご参加ください。

- 日時 2010年3月6日（土） 15:00～17:00
- 場所 駐日中国大使館教育処（江東区平野2-2-9）
東京メトロ半蔵門線・大江戸線 清澄白河駅下車徒歩7分
東京メトロ東西線 門前仲町駅下車徒歩10分
<http://www.china-embassy.or.jp/jpn/sjgs/t183827.htm>
- 対象 中国語あるいは中国文化に関心のある方 60名
- 参加費 無料
- 主催 中国大使館教育処、TJF

参加ご希望の方は、件名を京劇ワークショップとし、氏名、所属、連絡先をご記入の上、メール xiaoxi@tjf.or.jp もしくはファックス03-5981-5227で2月19日（金）までにお申し込みください。受け付けは先着順とさせていただきます。

第3回クムホ・アジアナ杯「話してみよう韓国語」高校生大会本選を開催します

本コンテストは、日本の高校生を対象に、韓国語と韓国文化に対する関心を高め、韓国語と日本語による表現力や伝達力を向上させることを目的として開催されています。第3回大会の本選を以下のとおり開催します。

- 日時 2010年3月13日（土） 13:00～（予定）
- 場所 韓国文化院ハンマダンホール（東京）
- 対象 2010年1月下旬実施の審査において、「韓国語スピーチ部門」「韓国語スキット部門」「日本語エッセイ部門」の各部門の予選を通過した者
- 審査委員 イ・ユニ（東京成徳大学教授）、兼若逸之*（東京女子大学教授）、姜信子（作家、恵泉女学園大学客員教授）、関川夏央（作家、神戸女学院大学客員教授）[五十音順、*審査委員長]
- 賞 最優秀賞：「韓国語スピーチ部門」「日本語エッセイ部門」各1名、「韓国語スキット部門」2名（1組）計4名／優秀賞：「韓国語スピーチ部門」「日本語エッセイ部門」各2名、「韓国語スキット部門」4名（2組）計8名／特別賞：「韓国語スピーチ部門」「日本語エッセイ部門」各1名、「韓国語スキット部門」2名（1組）計4名／指導教師賞：「韓国語スキット部門」の最優秀賞を獲得したペアの指導教師1名
- 主催 クムホ・アジアナ文化財団、駐日韓国大使館 韓国文化院、日中韓文化交流フォーラム、TJF

編集後記

中国遼寧省大連市教育局のひとりのリーダーが主導した中学校における日本語教育奨励プロジェクトは、リーダーの構想を理解した教育局の中学校の責任者と中学校を管轄する各行政区の教育長の支持を得て、2006年秋より始動した。日本語教育は新たな奨励策のもとで26人の校長の手により実施に移された。第一外国語としての日本語教育が立て直されるとともに、新たに中国初の中学校における第二外国語としての日本語教育が始まったのである。信じられないスピードだった。現在8,000人以上の中学生が日本語を学んでいるという。これまた、信じられない状況である。

2008年初めに当のリーダーが教育局のより高い地位につき現場を離れたことによって、プロジェクトの推進力は弱まったかに見えた。しかし、3年の間に日本語教育を支えるための制度化、予算化、そして現地化がある程度進んだこともあり、2009年度も引き続き日本語教育は維持されている。日本語教育に関心をもつ校長がいる限り、日本語教育は生き続けるであろうし、TJFとしては、本プロジェクトが長く継続されるよう協力していきたい。

一方、2009年は新型インフルエンザの流行によって、予定されていた教師研修会や教科書編集のための合同会合、日本の中学生の派遣など、いくつかの大きな事業が延期を余儀なくされたものの、この3年間、TJFが最も力を注いできた第二外国語教育用の教科書『好朋友』（試行版）全5冊を予定どおり出版することができた。

教科書は日中共同で取り組んだ大きな仕事だった。外国語教育に託した高い理念、先進的な教育内容と方法を惜しみなく導入した。横浜の中学生が父親の転勤で大連に赴き、現地の中学生と織りなす友情物語を描いた書き下ろしのストーリー漫画を主軸において教科書を構成した。従来の受験日本語の教育内容や方法とは異なるアプローチに対して、当初は抵抗を危惧したが、「第二外国語の日本語を教えるのは楽しい」というコメントをもらい、中学生たちも楽しいと言っていた。大連側の編集委員（中学校の教師たち）も日本側の編集委員も、共に多くのことを学び、共に大きく成長した、とお互いの労苦を振り返っている。今後、本教科書が市販されれば大連だけでなく他の地域での使用も可能となる。教科書の中身については本誌の第87号（2010年7月発行）で特集を組む予定である。

本プロジェクトにおいては、プロジェクトの進行過程そのものに大きな意味があったと感じている。実に多くの人との出会いがあり、学ぶことも多々あった。そして、このプロジェクトを資金的に後押ししてくださったのは、日本の民間のネットワークだった。TJFの呼びかけに応えてくださった日本の民のネットワークと中国の官とがトランスナショナルな連携をして、日中の子どもたちをつなげようとした。漫画の主人公さながら、日中の子どもたちはいずれどこかで出会い、本当の友情物語を紡いでいくくれるだろうと思う。

中野佳代子

財団法人 国際文化フォーラム THE JAPAN FORUM



国際文化フォーラム通信85号
2010年1月発行

発行人・編集人 中野佳代子
デザイン・DTPオペレーション 飯野典子
フォーマット設定 鈴木一誌
出力・印刷・製本 凸版印刷（株）
校閲・校正（有）天山舎

財団法人 国際文化フォーラム

〒112-0013 東京都文京区音羽1-17-14
音羽 YKビル3階
TEL 03-5981-5226 FAX 03-5981-5227
E-mail: forum@tjf.or.jp
<http://www.tjf.or.jp/>